

令和7年度六戸町総合教育会議議事録

期 日 令和7年11月20日（木）午後3時30分

場 所 旧六戸町立図書館会議室

議 事 六戸町教育大綱について
教育大綱の具現について

開会時刻 午後3時30分

閉会時刻 午後5時00分

出席者氏名

町 長 佐藤陽大
教 育 委 員 吉田尚子、山本晃広、下田 勝、保土沢まり
学 園 関 係 者 ニツ森牧彦（六戸学園校長）
総 務 課 長 小林 章
総務課長補佐 下田真悟

説明のために出席した者の氏名

教 育 長 瀧口孝之
教 育 課 長 長谷 智
指 導 室 外崎綱一
課 長 補 佐 高間木誠一、吉田和彦

会 議 録

開会（教育課長）

今年度の総合教育会議を始めます。よろしくお願いいたします。町長よりご挨拶申し上げます。

町長あいさつ（町長）

令和7年度六戸町総合教育会議にあたり一言あいさつを申し上げます。

総合教育会議は、平成27年度に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正があり、町長と教育委員が教育行政についての協議・調整をするための合議体として設けられたもので、今年で11年目を迎えているところであります。

また教育を取り巻く環境は、日々して変化しており、様々な課題がございます。連日のように報道されております学校現場の教員不足をはじめ、ICT教育、支援が必要な児童生徒への対応、部活動地域展開、最近では「熊」からの防御対策など多岐にわたり山積（さんせき）している状況であります。

本日は、第五次総合振興計画の後期計画を反映した六戸町教育大綱及び具現についてを議題としますが、この総合教育会議を通して、私（町長）と教育委員会が共通認識を持ち、様々な課題に対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします申し上げます。

さて六戸学園が開校して7カ月が経過しました。これまで六戸学園の主なイベントとしましては、私も所々で拝見しておりましたが、体育祭（大運動会）、学園祭（文化祭）、授業参観、修学旅行、中体連などが順調に行われており、主だった問題もなく開校から「良いスタートができています」と感じているところであります。改めまして教職員をはじめ、学園関係者のご苦勞に対し、感謝申し上げます。

また六戸学園の視察が毎月のように行われておりますが、訪問されたほとんどの方から高い評価をいただいている状況であります。特に宮下知事から「今後の学校整備のモデル」とまで言っていただきました。

この評価を維持継続していく所存ではありますが、私たちの目標は、施設を整備することがゴールではなく、この施設・設備をどうやって、子どもたちの将来に反映できるかが「キー」となると考えております。

六戸学園の最大の特徴であります。1年生から9年生までの約850人が同じ建物で過ごしております。まずその環境を有効なものとして捉え学習指導を行うこと、さらに電子黒板やメディアルームなどのICT設備の有効活用、子どもの減少によりこれまで実現できなかった部活動の再開・始動など、さまざまな可能性が存在しております。

六戸学園の開校により当町には、小学校・中学校を含め、学校が1校となりました。当町の財政状況は良いとは申し上げませんが、1校に予算を集中することはできます。将来性が見込まれるものについては予算化し、見直すものがあれば実効性をもって中止することもできます。この集中できる環境を最大限に生かし、六戸町の教育を皆様と論じてまいりたいと思っております。

私は、自治体における「教育はブランド」と考えております。六戸学園が「モデル」ではなく、全国に六戸学園の環境と教育を普及宣伝し、標準的なものになって欲しいと願っております。

本日は、委員の皆様からの自由で活発なご意見をお願い申し上げます。どうぞよろ

しくお願いいたします。

(教育課長)

ありがとうございました。次第の3からの進行を町長にお願いします。

議 事

六戸町教育大綱について

(町長)

さっそく案件の方に入っていきたいと思います。六戸町教育大綱の説明をお願いします。

(教育課長)

今回の教育大綱は、第五次六戸町総合振興計画の後期計画を反映させたものとなります。それぞれの分野が現状に合わせた内容になっておりますので、それぞれ変更内容をご説明します。

まずは、学校教育の現状と課題になります。

わが国では、令和5年度に「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトとして掲げた第4期教育振興計画を策定し、様々な教育政策を展開しています。

本町では、次代を担う子どもたちの学ぶ機会の均等化、よりよい学習環境の形成に向け、小学校3校と中学校2校を1校に再編し、県内初の義務教育学校である「六戸学園」を令和7年4月1日に開校しました。

「六戸学園」は町のシンボルとなる学び舎として、学校・保護者・町民がそれぞれの役割を果たしながら協働していく学校の構築とともに校訓「みる・しる・とぶ」に基づく教育活動を通して一人ひとりが輝き、変化の激しい社会の中にあっても、子どもたちの「生きる力」を育むため、義務教育9年間を一体的に捉え、指導の一貫性、学びの系統性・連続性を強化した教育活動を展開しています。

今後は、家庭や地域と連携をさらに強化し、本町の自然や産業、地域の人々、そして「六戸学園」という優れた教育資源を十分に生かすとともに、対話型の取り組みを重視しながら、教育活動全般の一層の充実を図り、変化の激しい社会を生き抜く力を育むとともに、世界の中で活躍できる人財、ふるさとに戻り、ふるさとを育てる人財育成を一層推進していく必要があります。

次に生涯学習の現状と課題です。

(吉田課長補佐)

人生100年時代やデジタル社会を迎える中、すべての人々が生涯にわたって学び続け、活躍できる環境づくりや、地域コミュニティの基盤を支える学習活動の促進がますます重視されてきています。

本町では、町民が生きがいのある充実した生活を送るとともに、人と人の絆の中で豊かで住みよい地域社会づくりを推進するため、「夢生学習塾」の開催をはじめ、多様な学習活動や社会参加活動への支援、社会教育団体等の育成と活動の支援に努めています。

今後は、生活や職業能力の向上、自己の充実を目指して各人が自発的意思に基づき自己に適した手段・方法を選んで生涯を通じて行う学習活動の支援や、主として青少年及び成人に対する組織的な教育活動を展開するとともに、自立した社会教育団体の事業運営や人づくりを進めていく必要があります。

また、読書活動は、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠かせないものであり、デジタルメディアの普及等を背景に、全国的に活字離れや読書離れが進む中、読書活動の促進が強く求められています。

本町では、「六戸学園」の敷地内に、町立図書館（学校図書室を兼ねる）を令和7年6月1日にオープンし、「六戸学園」とともに町のシンボルとなっていますが、今後とも、町民が本に親しみ、生活文化を向上させるとともに、優れた知性と豊かな感性を身につけることができるよう、読書環境のさらなる充実を図っていく必要があります。

（教育課長）

次は文化芸術の現状と課題です。

（吉田課長補佐）

文化芸術は、人々の心豊かな生活と活力ある社会を築く活動として、また、人と人との相互理解を促す共生社会の基盤として、地域活性化に大きな役割を果たしています。

本町では、文化協会や無形文化財保存会が中心となって、様々な文化芸術活動・伝統芸能伝承活動が行われているとともに、町民文化祭や個別団体による発表会、六戸秋まつり、メイプルタウンフェスタなどにおいて、活動の成果を広く町内外へ発信しています。また、文化ホールでは、子どもから高齢者までの幅広い年齢層を対象に、多様な文化芸術にふれる機会の提供に努めています。

しかし、各種活動への参加者の減少や高齢化、若者の参加率の低下といった状況もみられ、今後は、世代を問わずだれもが気軽に文化芸術にふれ、活動できる環境づくりを一層進めていく必要があります。

また、本町には、「学秀作大日如来像」や「学秀作七菩薩像」、「旧苔米地家住宅」、「鶴喰鶏舞」、「折茂今熊神楽」、「上吉田南部駒舞」、「上吉田大黒舞」などの有形・無形の貴重な文化財があります。

これらの文化財は、古くからこの地域に受け継がれ守り継がれ守り続けられてきたもので、町民共通のかけがえのない財産です。

今後とも、文化財を保護・保存する活動を続けていくとともに、保護・保存してきた文化財の価値を、町民のみならず多くの人々に伝えていく必要があります。

（教育課長）

次は、スポーツの現状と課題です。

（吉田課長補佐）

令和7年度に、スポーツ基本法が改正され、スポーツの果たす役割は、一人ひとりが、スポーツに親しみ、楽しみ、支える活動に参画し、集い、つながること等によって果たされるものであり、スポーツ立国の実現は、わが国の発展のために不可欠な重要課題であるとしています。

本町には、県内有数のスポーツ拠点である総合運動公園をはじめ、総合体育館や海洋センターなどのスポーツ施設が整備されており、これらを拠点に、スポーツ協会やスポーツ少年団を中心とした町民主体のスポーツ活動が活発に行われています。

町では、これらのスポーツ活動を支援するため、スポーツ協会等と連携しながら、各種スポーツ大会・教室を開催しているほか、スポーツ団体や指導者の育成、スポーツ施設の整備充実等に努めています。

しかし、今後、少子化の進行等に伴い、スポーツ活動への参加者の減少が見込まれる一方、高齢化の進行等を背景に、スポーツに求められる役割や期待はますます大き

なものとなることが予想されることから、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じてスポーツ活動に親しみ、日々の暮らしの中に定着させることができる環境づくりを一層進めていく必要があります。

また、本町は、令和8年に開催される「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」の軟式野球（成年男子）の会場となっており、これを契機としたスポーツ振興等の取り組みも必要です。

（教育課長）

次は、青少年健全育成の現状と課題です。

（高間木課長補佐）

少子化や核家族化の進行に伴う家族形態の変化、価値観の多様化、デジタル化の進展等を背景に、青少年を取り巻く環境が大きく変化する中、非行やひきこもり、SNSを通じたトラブルの増加など、全国的に青少年をめぐる問題が深刻化しています。

本町では、青少年健全育成町民会議や子ども会が中心となり、家庭や地域の教育力の向上に向けた取り組みを推進するとともに、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる環境づくりに取り組んでいます。

しかし、今後、少子高齢化や核家族化、デジタル化等が一層進み、青少年を取り巻く環境はさらに大きく変化していくことが見込まれます。

このため、青少年の社会性を育むための家庭の教育力の向上や地域全体で子どもを育てる取り組みをはじめ、関係機関・団体が一体となった地域ぐるみの健全育成活動をより一層推進していく必要があります。

（教育課長）

最後に、多文化共生・地域間交流の現状と課題です。

（外崎指導主事）

近年、グローバル化がさらに進むとともに、全国的に外国人住民やインバウンドが増加する中、多文化共生のまちづくりの重要性がますます高まっています。

本町においても、外国人住民や外国人労働者・技能実習生等の増加を踏まえ、多文化共生に関するセミナーの開催やホームページの多言語表示の実装、県等関係機関と連携した「ゼロから始める多文化共生 やさしいにほんご入門・体験」や「あおもりグローバルアカデミー」（異文化コミュニケーション講座・交流講演会等）の参加案内等を行っています。

また、令和6年度に、多文化共生社会の実現を目指して活動する団体が町内で立ち上げられ、本町を含む青森県内5箇所で開催等が行われています。

こうした多文化共生に関する取り組みは、異なる国や文化の理解・共生はもとより、多くの分野で本町の活性化や本町を担う人財の育成につながることを期待されていることから、今後は、多文化共生に関する指針づくりのもと、具体的な取り組みを計画的に進めていく必要があります。

また、本町では、国内における地域間交流活動として、「戸」のつく青森県1市5町、岩手県1市1町1村による「戸」のまち交流事業に参画し、交流を行っていますが、今後とも交流を継続していくとともに、町民と一体となった交流へと発展するよう努める必要があります。

（教育課長）

教育大綱は、本町の教育の基本的なことであります。教育大綱の説明は、以上になります。

六戸町教育大綱についての質疑応答

(町長)

ありがとうございました。今回の教育大綱については、六戸学園設立を含め、現状にあったものと思います。質疑等がないようですので、次の案件に進みます。

教育大綱の具現について

(町長)

皆さんの方から何か質問とかご意見というのがあれば、教えてください。次の具現の説明と合わせて随時質問受け付けしますので、教育大綱の具現について、説明をお願いします。

(教育課長)

教育大綱を踏まえて、教育委員会で具体的に施策を計画し進めていく具現の説明となります。まずは学校教育からです。

(外崎指導主事)

学校教育の分野では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒が主体的・対話的で深い学びをとおして、資質・能力（≒学力）の三本柱 ①生きて働く知識・技能を習得し②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等や③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等が培われるよう人材の育成を推進します。

さらに、六戸町立義務教育学校六戸学園の教育活動を全面的にサポートします。

教育理念と目指す子ども像はこれまでと同様となります。

確かな学力の育成について、ご説明します。

六戸学園と密接に連携し、学習意欲の向上と学習習慣の確立を図り、一人一人の資質・能力を強く引き出し高めます。

主な取り組みとしましては、学力向上推進委員会との連携による「六戸学園式授業づくりスタンダード（探究型授業）」の実践・充実、学校教育活動支援員の配置、学校図書館活動の充実・推進、イングリッシュサロンの開催（コミュニケーション能力の育成等）、日常的にICTを活用した授業の充実（ICT支援員の配置と積極的活用）、六戸学園8年生による大学見学会の実施、全国学力学習状況調査の結果分析と公表、学校教育へのフィードバック、保育園・こども園と六戸学園との連携強化（架け橋プログラムの推進）、各種学校等との連携強化となります。

豊かな心の育成として、主体的に判断して適切に行動する自律心を持ち、他人と協調する利他の心や、感動する心を備えた豊かな人間性をはじめ、非認知能力を育みます。

主な取り組みとしましては、六戸学園生海外交流事業の推進、六戸学園生を中心とした教育相談機能の強化と教員への指導法のアドバイス、学校図書活動の充実・推進、六戸学園生の候内外作品展示、ボランティア活動への支援、インターンシップへの協力、地域社会との交流会の開催・支援、生徒指導連絡協議会との連携強化、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の活動推進、地域学校協働本部の創設となります。

健やかな体の育成として、運動習慣の形成や歯の健康、食育指導をとおしてたくましい体の育成と、校内外において危険回避行動がとれる能力・態度を育みます。

主な取り組みとして、校内での体力づくりへの協力、あすなろっ子元気アップチャレンジ（県スポーツ健康課）の奨励、学校保健会への支援、学校医・学校歯科医・学校薬剤師等との連携、安全安心な学校づくり、学校給食の推進、年長児のフッ素洗口

の実施となります。

不登校の未然防止と早期発見・早期対応として、児童生徒と学校・家庭・関係機関等との適時適切な対応をとおして、不登校の未然防止と、早期発見・早期対応を行います。

主な取り組みとして、不登校対策の行動指針の活用（生徒指導提要等）、メイプルミーティングの定期的な開催により気になる六戸学園生の把握と対応、六戸町教育支援センター（メイプル・ルーム）の活用、学校教育指導室指導員との連携、スクール・ソーシャルワーカー活用への支援、スクール・カウンセラー活用への支援、学校における個別検討会議への支援、各種教育施設への登校の働きかけ・支援、教育講演会等の開催となります。

いじめ行為の未然防止と早期発見・早期対応として、「互いの違いを認め合うこと」、「どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」を前提に、いじめの未然防止と早期発見・早期対応を行います。

主な取り組みとして、いじめ防止基本方針に基づく、いじめの積極的な認知と組織的な対応の徹底、いじめアンケート調査の実施、「いじめ事案報告カード」による早期対応、いじめ問題連絡協議会の開催、いじめ問題対策審議会の開催・活用、学校教育指導室指導員との連携、スクール・カウンセラーとの連携、校内いじめ対策委員会との連携、生徒指導主任・主事研修会の開催、いじめゼロキャンペーン（児童会・生徒会等宣言）への協力となります。

特色ある学校運営として、各種事業をとおして、学校や郷土に愛着と誇りを持つ子どもを育成します。

主な取り組みとして、社会活動グループとの交流促進、町が開催するイベントへの参加奨励、ボランティア活動の推進・支援、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進・支援、地域学校協働本部の創設となります。

学校教育活動の公開として、学校教育活動の公開を通じて、地域社会の理解と協力を得て学校教育力を向上させます。

主な取り組みとして、「広報ろくのへ」への掲載、学校行事開催案内、学校教育活動の公開・支援、地域の人材の活用促進、社会教育活動との連携、学校だよりや通信の地域回覧となります。

（教育課長）

次は社会教育の分野ですが、変更がありませんので説明は省略します。

図書館の分野は、新設図書館を踏まえた内容となります。

町立図書館と学校図書室を共有し、読書習慣形成のため、読書活動への理解と関心を深め、普及・啓発を図り、読書環境及び読書活動の充実を推進します。

主な取り組みとして、学校図書館活動の充実・推進、お話し会の開催、IT機器を活用した情報提供、配本巡回指導の推進、企画展示の開催となります。

次は、スポーツの分野です。主な変更箇所は、青の煌めきあおもり国民スポーツ大会 2026 を追加しました。

最後に施設整備についてご説明します。

（高間木課長補佐）

教育関連施設・設備の充実としましては、教育委員会関連の施設・設備を整備し、活発な教育活動を推進します。

学校教育関連施設・設備として、六戸学園の施設・設備の整備、ふれあい昭陽館、

旧小・中学校利活用等への働きかけを行います。

社会教育・図書館関連施設・設備として、文化ホール、就業改善センターの施設・設備の整備・保全、新町立図書館の施設・設備の整備、既存町内会管理の公民館補修、改修等への対応、七百地区公民館の在り方相談、旧図書館利活用等への働きかけを行います。

スポーツ関連施設・設備として、総合体育館、北部スポーツセンター、総合運動公園、B&G プールの施設・設備の計画的な整備・改修・保全を行います。

(教育課長)

以上で教育大綱の具現についての説明を終わります。

教育大綱の具現について質疑応答

(町長)

質問等ありますか。

(山本委員)

町長へ要望です。今年度も「住み続けたいまち幸福度ランキング」が発表され、2年連続で、青森県で第1位という報道がありました。六戸学園開校で町の教育環境は、かなり整理されたと思います。次は、総合運動公園や町内にある公園へ「遊具」を整備し、子育てしやすいまちづくりの検討をお願いします。いずれ移住とは申し上げませんが、転入者の増加につながる施策となると思います。

(町長)

総合運動公園内の再配置は、私も施策として考えているところです。しかし財政状況に起因するところも大きいので、バランスをとって進めてまいりたいと思います。

(保土沢委員)

今年のメイプルタウンフェスタでは、子どもたちの作品展示がなかったと思います。やはり楽しみにされて来場している方もおりますので、復活をお願いします。

(二ツ森校長)

学園に持ち帰り検討の方向で進めてまいります。

私の方から六戸学園が開校し、これまで様々な事業を行ってまいりました。学園の教職員の働き方に感謝しますが、まだ1年を経過していないので、わからない部分が見えてくると思います。町長はじめ教育委員会のご支援を引き続きお願いします。

(町長)

ほかに質問はありませんか。(質問なし)

閉会

(町長)

質問がないようですので、以上で総合教育会議を閉じさせていただきたいと思えます。長時間にわたりご協力いただきありがとうございます。